

科目名	総合日本語Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	20単位	時間数	300時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)2年						
授業概要	<p>次のような技能を伸ばすことを目的として授業を行います。</p> <p>①より複雑な文の構造を理解し、まとまった内容の文でやり取りできる。                  ②文章の構造を理解し、まとまった内容の文章を読み書きできる。                  ③適切に使用できる漢字や語彙・表現の範囲を広げる。                  ④発話意図や場面に合わせて適切に表現を使い分けられる。                  ⑤自らに関係する諸問題について、自分なりの見解を持ち、それを相手が納得するように説明できる。</p>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	目標						
	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
○	○		○		日常身近に体験する出来事や社会的な話題について、自分の感想や意見が理由とともに詳しく説明できる。		
○	○		○		異なる視点や考え方を持つ相手とも、興味・関心を持って適切な表現で情報や意見の交換ができる。		
テキスト・教材 参考図書	松田浩志・亀田美保 『中級から学ぶ日本語三訂版』 研究社 2015年 アジア学生文化協会 『TRY! N2』 アスク出版 2016年 松田浩志・亀田美保 『上級で学ぶ日本語三訂版』 研究社 2019年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~8	第16課 文法10(2)			授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	9~16	第17課 文法11			授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	17~24	第18課 文法12(1)			授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	25~32	第19課 文法12(2)			授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	33~40	第20課 文法13(1)			授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	41~50	文法13(2)・14			授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	51~60	第1課			授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	61~70	第2課			授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	71~80	第3課			授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	81~90	第4課			授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	91~100	第5課			授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	101~110	第6課			授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	111~120	第7課			授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
121~130	第8課			授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)			
131~140	第9課			授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)			
141~150	第10課			授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
確認テスト	◎	◎		○		50%	
履修上の注意							

科目名	会話Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)2年						
授業概要	進学及び進学後に役立つテーマで、能動的に話せるようになることを目指します。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		抽象的、やや専門的な話題に加わることができる。	
	○	○		○		複段落で話すことができる。	
	○	○		○		会話の流れをある程度自分でコントロールできる。	
	○	○		○		カジュアルやフォーマルを使い、聞き手に配慮しながら伝えられる。	
テキスト・教材 参考図書	テキストは使用しません。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	面接①				指定された事前課題、事後課題を行うこと(0.5時間)	
	2	面接②				指定された事前課題、事後課題を行うこと(0.5時間)	
	3	ディベート①				指定された事前課題、事後課題を行うこと(0.5時間)	
	4	ディベート②				指定された事前課題、事後課題を行うこと(0.5時間)	
	5	スピーチ①				指定された事前課題、事後課題を行うこと(0.5時間)	
	6	スピーチ②				指定された事前課題、事後課題を行うこと(0.5時間)	
	7	プロジェクトワーク①				指定された事前課題、事後課題を行うこと(0.5時間)	
	8	プロジェクトワーク②				指定された事前課題、事後課題を行うこと(0.5時間)	
	9	プロジェクトワーク③				指定された事前課題、事後課題を行うこと(0.5時間)	
	10	プロジェクトワーク④				指定された事前課題、事後課題を行うこと(0.5時間)	
評価方法	(1)定期試験(口述)を実施する。(2)中間試験(口述)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				
	中間試験	◎	◎		◎		
履修上の注意							

科目名	聴解Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)2年						
授業概要	幅広い場面で、自然に近いスピードのまとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりできるようになることを目指します。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		会話やニュースから必要な情報を聞き取ることができる。	
	○	○		○		会話やニュースから話者の意図や主張などが理解できる。	
	○	○		○		複数の情報を比較・統合しながら内容を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	佐々木仁子・松本紀子 『日本語総まとめN2聴解』 アスク出版 2017年 佐々木仁子・松本紀子 『日本語総まとめN1聴解』 アスク出版 2011年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第3章5 第4章1				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	2	第4章2・3				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	3	第4章4・5				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	4	第5章				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	5	第1章 文法に関する聞き取り				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	6	第3章 情報を聞こう				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	7	第3章 指示を聞こう				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	8	第3章 説明を聞こう				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	9	第3章 テーマや言いたいことを聞こう				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	10	第3章 まとめ問題				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)中間試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	中間試験	◎	◎		○		50%
履修上の注意							

科目名	作文Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)2年						
授業概要	400字以上の抽象的、専門的な文章が書けるようになることを目指します。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		構成に気をつけて文章を書くことができる。	
	○	○		○		論理的に説得力のある文章が書ける。	
	○	○		○		効果的で適切な表現を用いてわかりやすく書くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	日本語教育教材開発委員会 『学ぼう! にほんご作文練習帳』 専門教育出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第11節 場面を仮定して意見を述べる①			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	2	第11節 場面を仮定して意見を述べる②			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	3	第12節 将来を予測する①			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	4	第12節 将来を予測する②			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	5	第13節 自分の経験をもとに主張する①			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	6	第13節 自分の経験をもとに主張する②			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	7	第14節 物事を比べながら主張する①			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	8	第14節 物事を比べながら主張する②			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	9	第15節 時事問題について考えを書く①			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	10	第15節 時事問題について考えを書く②			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)宿題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	宿題	◎	◎		○		50%
履修上の注意							

科目名	読解Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)2年						
授業概要	幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで、文章の内容が理解できるようになることを目指します。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○		○	550字程度の解説やエッセイを読んで、概要や論理の展開が理解できる。		
	○	○		○	知らない言葉や文法が多少あっても、前後関係から意味を推測できる。		
テキスト・教材 参考図書	渡邊亜子・菊池民子 『スピードマスターN2読解』 Jリサーチ出版 2017年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ウォーミングアップ			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	2	実戦練習 短文①			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	3	実戦練習 短文②			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	4	実戦練習 中文①			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	5	実戦練習 中文②			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	6	実戦練習 統合理解①			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	7	実戦練習 統合理解②			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	8	実戦練習 長文①			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	9	実戦練習 長文②			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	10	模擬試験			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)中間試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
中間試験	◎	◎		○		50%	
履修上の注意							

科目名	文字語彙Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)2年						
授業概要	日常生活でよく使われる約1400語を、トピック・使い方などのグループごとに学びます。JLPTN2の言語知識だけでなく、読解や聴解にも役に立ちます。						
授業形式	講義	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		幅広い場面で必要な語彙の意味や用法を正しく理解し、使うことができる。	
	○	○		○		副詞や慣用句、接続詞が正しく使える。	
	○	○		○		似ている言葉や意味が複数ある言葉が使い分けられる。	
テキスト・教材 参考図書	佐々木仁子・松本紀子 『日本語総まとめN2語彙』アスク出版 2017年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第5週①				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	2	第5週②				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	3	第6週①				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	4	第6週②				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	5	第7週①				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	6	第7週②				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	7	第8週①				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	8	第8週②				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	9	模擬試験①				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	10	模擬試験②				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	小テスト	◎	◎		○		50%
履修上の注意							